

指定管理者制度導入施設 モニタリングチェックシート

(令和 3 年度 上半期(4月～9月) の管理運営状況)
年間 (4月～3月))

施設名	五日市センター	指定管理者	医療法人財団 暁
指定期間	平成 30 年 4 月 1 日から 令和 5 年 3 月 31 日まで	担当課	高齢者支援課

1 業務の遂行状況及び収支の状況

項目	分類	年間計画 (A)	実績 (B) (モニタリング時)	対計画比率 (B/A×100)	
業務の 遂行状況	開館日数 (日)	263	228	86.7%	
	延べ利用者数 (人)	3,150	1,538	48.8%	
	事業開催 回数	必須事業 (回)	241	204	84.6%
		自主事業 (回)	590	460	78.0%
収支状況	収入	指定管理料 (円)	13,735,000	13,735,000	100%
		利用料金収入(売上) (円)	2,677,500	1,307,300	48.8%
		自主事業収入 (円)	5,508,760	3,386,430	61.5%
		その他の収入 (円)	0	0	0%
	収入計 (円) …①		21,921,260	18,428,730	84.1%
	支出	人件費 (円)	11,000,350	10,072,320	91.6%
		維持管理経費 (円)	7,257,233	5,078,885	70.0%
		自主事業関係経費 (円)	2,633,400	1,557,340	59.1%
		その他の支出 (円)	0	0	0%
	支出計 (円) …②		20,890,983	16,708,545	80.0%
	収支 (①-②) (円) …③		1,030,277	1,720,185	167.0%
諸経費 (本社運営費など) …④		0	0	0%	
総収支 (③-④) (円)		1,030,277	1,720,185	167.0%	

指定管理者の自己評価 (改善点、その他特記事項)

<p>【開館日数・利用者数について】 開館日数については、新型コロナウイルスの影響はありましたが、概ね予定どおりに開館できました。 利用者数は、前年度比で必須事業は 95.2%、自主事業は 148.8% になりました。今後も利用者数の増加に努めます。</p>	<p>【事業の実施状況について】 必須事業については、利用者の自立支援に向けた趣味活動や体操、レクリエーションゲームに取り組みました。 自主事業については、新規講座の開講に力を入れ取り組みました。</p>	<p>【収支状況について】 収支については、前年度と比較すると、必須事業 95.2%、自主事業 126.1% でした。自主事業については上向きですが、必須事業は、増加するように努めます。</p>
------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------	---------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------	-------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------

所管課の評価 (指摘事項)

<p>【開館日数・利用者数について】 新型コロナウイルス感染症の影響がある中、感染症対策を施しながら事業を実施し、前年度比で自主事業の利用者数が増加したは評価できます。 引き続き、安全かつ適正なセンター運営に努め、利用者数の増加を図ってください。</p>	<p>【事業の実施状況について】 コロナ禍において外出等の機会が減少し、心身に負担が増加している利用者配慮し、自立支援に向けて事業に取り組めたことは評価できます。 引き続き、高齢者のニーズに応えた事業の展開に取り組んでください。</p>	<p>【収支状況について】 新規事業の取組により自主事業収入が増加、また、経費を抑えることで総収支をプラスにできたことは評価できます。 引き続き経費の節減に取り組み、安定したセンター運営に努めてください。</p>
----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------	-------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------	-------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------

2 チェック項目

評価項目・評価事項（数値目標）		確認資料等	指定管理者の自己評価	所管課の評価
受付等の業務	施設の利用許可等を条例に従い適切に行っている	日報、月報、利用者アンケート、申請書	適正・要改善	適正・要改善
	使用料、利用料金の徴収、減免を適切に行っている	日報、月報、申請書	適正・要改善	適正・要改善
施設・設備の維持管理	消防設備、機械設備の保守点検や施設の修繕等を適切に行っている	各種点検結果報告書、実地	適正・要改善	適正・要改善
	衛生環境を維持するため清掃業務等を適切に行っている	日報、月報、実地	適正・要改善	適正・要改善
	備品等を適切に保管・管理している	備品台帳、実地	適正・要改善	適正・要改善
	業務の全部又は主たる業務を第三者に請け負っていない	実地	適正・要改善	適正・要改善
安全性への配慮	安全管理、衛生管理、危機管理に関するマニュアルが整備され、また、職員等に対する指導訓練が適切であり、市への通報体制が整っている	危機管理マニュアル	適正・要改善	適正・要改善
	避難経路の確保、事故防止策や防犯等の警備業務など利用者への安全対策が講じられている	実地	適正・要改善	適正・要改善
	損害保険等の必要な保険に加入している	保険証書	適正・要改善	適正・要改善
透明性・公平性	ホームページ等により施設の情報の公開に努めている	ホームページ	適正・要改善	適正・要改善
	情報公開に対する体制を整備している	情報公開マニュアル	適正・要改善	適正・要改善
	利用者の平等な利用が確保されている	日報、月報、利用者アンケート、申請書	適正・要改善	適正・要改善
効果的・効率的な運営	苦情や利用者アンケートによる意見、要望等を管理運営に反映している	利用者アンケート	適正・要改善	適正・要改善
	施設の利用者拡大の取組を行っている	日報、月報、事業報告書	適正・要改善	適正・要改善
	経費削減のための取組を行っている	日報、月報、事業報告書	適正・要改善	適正・要改善
	広報紙、チラシ、ホームページなどにより積極的に事業等を周知している	広報紙、チラシ、ホームページ	適正・要改善	適正・要改善
人員配置・人材育成等	事業計画書どおりの人員を配置している	5人 人員配置計画、実地、出勤簿	5人 適正・要改善	5人 適正・要改善
	事業計画書どおりの職員の指導育成や研修を行っている	12回/年 研修マニュアル	実施回数12回 適正・要改善	実施回数12回 適正・要改善
	障がい者や高齢者、地域住民の雇用促進に努めている	100% 人員配置計画	100% 適正・要改善	100% 適正・要改善
	労働法令の遵守やハラスメント対策など、労働環境への適切な配慮がなされている	実地、出勤簿、就業規則等	適正・要改善	適正・要改善
個人情報の保護	個人情報を保護するための取組を行っている	個人情報保護マニュアル	適正・要改善	適正・要改善
	文書管理を適切に行っている	保存文書	適正・要改善	適正・要改善
自主事業の取組	自主事業の実施により、市民サービスの向上に努めている	事業報告書、日報、月報、実地	適正・要改善	適正・要改善
環境への配慮	省エネルギーの取組、環境負荷低減、ゴミの減量など、環境への配慮に取り組んでいる	日報、月報、実地	適正・要改善	適正・要改善

※評価基準

「適正」：その項目について、協定書、事業計画書等に沿った適正な指定管理業務を行っている。

「要改善」：その項目について、協定書、事業計画書等に照らし合わせて、目標達成されておらず、改善の余地がある。

3 上記1、2の評価に関する所見

指定管理者による所見（改善点、その他特記事項）

必須事業では、第3回緊急事態宣言時、前年度好評だった、お便りを利用者に配布し、絆を大切にしました。必須事業が開始すると、「お便りに手工芸の作品が写真で載っていて、センターに来ることを楽しみにしていたわ」と嬉しいお言葉を頂きました。また、新型コロナウイルス感染症の影響で依然として介護申請への移行傾向にありますが、利用者数は前年度と比較しても横ばいの状況です。引き続き、利用者の心身機能の維持・向上、自立生活の援助に努めていきます。新規利用者も新型コロナが終束してから通所したいという声もありました。

自主事業では、2022年1月から開始したスマホ教室が好評で、月1回の実施を毎週に増やし、市民のニーズに答えました。スマホ教室では毎回アンケートも実施し、満足度は、ほぼ100%でした。スマホ教室を受講したお客様が他の講座に興味を持ち、申し込みいただくこともありました。また、利用者から太極拳教室を始めて欲しいと要望があり、利用者が講師を探してご紹介をいただき講座を開始するなど、市民の方がセンター作りに関わってくれました。

両事業とも、市民の皆様へ寄り添ったセンター作りを常に職員間で話し合い、共有して安全対策を含めたサービスの向上に努めました。

所管課による所見（指摘事項など）

コロナ禍において外出等の機会が減少し、心身に負担が増加している利用者へ配慮しながら事業に取り組みました。自主事業においては満足度が高いスマホ教室の実施回数を増加させるなど、市民のニーズを把握し事業を実施することができています。引き続き、利用者の声に耳を傾け、安心安全で利用しやすい環境を作り、身近に感じるセンター運営を心がけてください。